

WAKAMONWORK

WAKAMONWORK



Fujieda wakamon work

夢を力タチにできるまち

【このまちで私たちが働く理由】

地方創生加速化交付金活用
藤枝市地域産業
プロモーション事業
藤枝市産業政策課
編集:(株)藤枝オリヨミピアール

2017年3月10日発行

藤枝市は地元の中小企業を支援するエコノミックガーデニングを推進しています

わたしが 仕事にかける思い

なぜ藤枝で働いているのか。市内の中小企業で活躍する若者へスポットを当て、藤枝の企業のこと、そしてそこで働く人、夢ややりがいを紹介します。かっこいい若者の姿を感じてください。



PEOPLE #01

信頼される接客で、気持ちのよい空間をつくりだす。

「積極的に人と関わり、いろいろな話をしてみたい」。短大卒業後、進路に迷いながらも人見知りな性格の自分を変えたいという思いから、ショールームでの販売員として現在のホンダモーターに就職。就職をきっかけに人と接する仕事を選んだ。

職場では、お客様と営業の間をつなぐ、カスタマーアシスタントとして接客・電話対応・商談の業務を担当。

幼少期にバレエを習っていた経験を活かし、気持ちの良い接客からお客様に信頼されて

いる。接客の際、質問に対してわかりやすく応対をしたり、お客様の環境や立場にたつて親身に相談にのることを意識し「自分が応対したことで、お客様に喜んでもらえると嬉しい」とやりがいを感じている。お店の明るい雰囲気を作るために、日々笑顔を絶やさず、仕事に取り組む姿が輝いている。今後はさらに、自動車に対する知識を深め、営業や整備士の業務を把握することで、より円滑なコミュニケーションがとれるよう技術を磨いていきたいと語る。



[THE MOVIE](#)



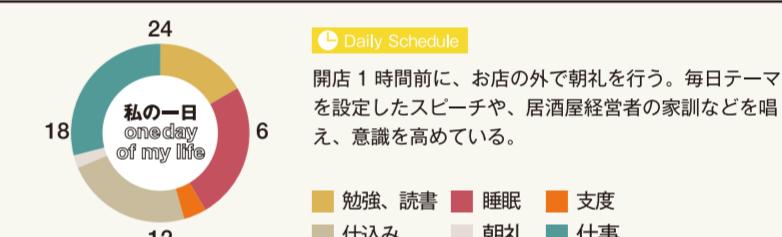
PEOPLE #02

熱い想いを胸に、日本一の居酒屋を志す。

「もともと本を読むのが好きで、本屋でたまたまこの本を見つけたんだよね」と学生時代にバーでアルバイトをしていた彼は、藤枝の居酒屋のことについて書かれた本をきっかけに今の仕事に就いていると話してくれた。本を読んだ時には感動したが、そんな店があるのかと半信半疑で、大学4年の夏休みに藤枝を訪れた。「看板がなくてうろ覚えたけど、お店に近づくにつれて外までお店の人の声が聞こえるし活気があった。間違なくここだとわかった」。居酒屋の店員さんに気持ちよく出迎えられ、その時店にいた社長に、本を読み四国から訪れたことを伝えるとスカウトされたという。現在は藤枝に住み、店長として接客に対する熱い想いをもつ仲間と共に働く。



「人を楽しませるためには、まずは自分が楽しんでから。そこから周りをまきこんでいく！」と人に喜んでもらうことが最優先。居心地の良い店をつくりお客様と一緒に日々接している。今後の夢は、日本一元気で明るく活気のある居酒屋にしてくこと。そして、まち全体を盛り上げていきたいと語る。



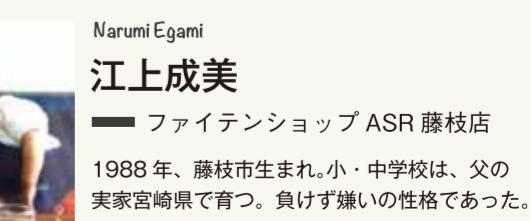
PEOPLE #03

実体験を活かし、健康をサポート。

「振り返ると、私の人生とサッカーは切っても切り離せません」。小学校3年生の時、2つ上の兄に憧れでサッカーを始めた。本格的にサッカーをプレーするため、高校進学と同時に生まれ故郷の藤枝に単身帰郷。その後、大学進学を機に再び藤枝を離れ、就職後なでしこ2部リーグのチームでプレーした。一旦サッカーから離れようと考えても、藤枝で誕生した女子サッカーチーム“アスレジーナ”に出会う。「挫折を味わったこともありますでしたが、やっぱり私はサッカーが好きなんだと思います。今は、仕事と両立し、楽しくプレーできることに喜びを感じています」。普段の仕事は、スポーツ・健康用品の販売をはじめ、トップアスリートから一般の方までの身体の悩みのカウン



セミングを行う。症状や悩みを聞き、身体をリラックスさせ、健康をサポートしながら解決に導くことが役目だという。「これからも、お客様との会話をより楽しみ、たくさんの方の健康の悩みに親身に寄り添っていきたいです」。働きながらサッカーができる、藤枝の環境に満足していると、笑顔で話してくれた。





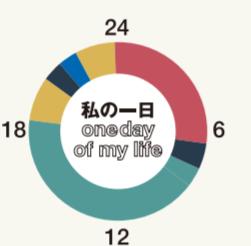
#4
Mika Hamasaki
浜崎美佳
— 学校法人大雄学園 ふじの花保育園
1991年、牧之原市生まれ。
茶畑を探検したり、友達と良く遊ぶ活発な女の子だった。

PEOPLE #04

小さい頃から好きだったことを仕事に。

「小さい頃から年の離れた弟の面倒をみっていました。泣き虫だった自分に優しく接してくれた幼稚園の先生が好きでした」と、小さい頃の経験から保育士を志すようになったと語る。牧之原で育ち、高校から藤枝へ通いはじめた。その際、職場体験で現在の職場を訪ね、子どもたちと触れ合うことに樂しさを感じた。進学先が決まった後も、空いた時間をみつけると積極的に保育園へ顔を出していた。

「今の保育園は、あたたかい人たちはかりで、子どもたちもかわいらしい」と5歳児29人の担任として日々奮闘している。「心をそだてる」ということをモットーに接することで、子どもたちも笑顔で応えてくれるし、なにより逆に気づかされることも多いという。



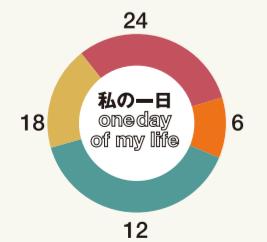
⌚ Daily Schedule
牧之原市の実家から通う。仕事を終えた後は、同じ職場の同僚とごはんを食べに行き、息抜きするのが楽しみ。
■ 睡眠 ■ 食事 ■ 仕事
■ お風呂 ■ くつろぐ

#5
好奇心を活かし、習得した技術。

「好奇心旺盛でいろいろなことに興味を持つ性格なんです。小学校のころ祖母が買ってくれた地球儀をきっかけにいろんな国があることを知りました」と小さい頃から外国へのあこがれや興味があったことを話す。大学を卒業後、オーストラリアへ。キャンピングカーで寝泊まりしながらいろいろなところを巡った。「旅行とは違い、生活することで気がつくことも多く、国が変わると人間模様も変わることに衝撃を受けたんです。自分の考え方も180度変わりましたね」。もっと自分の知らない地域へ行き、文化を知りたいという思いから、世界各国でバックパッカーとして生活してきた。季節や時期により訪れる場所を変え、7年かけ十数カ国をまわり、その土地ごとに旅をしてきた。



#5
Daisuke Kajiyama
梶山大輔
— 結ひ VALLEY
1983年、岡部町生まれ。
好奇心旺盛でいたずらが大好きな少年だった。



⌚ Daily Schedule
仕事は季節や気候により、日々様々に変化していく。世界を回ったときに身につけた、音楽やギターを楽しむ。

■ 睡眠 ■ 支度 ■ 仕事 ■ 音楽

PEOPLE #06

お茶の変化に面白みを感じのめり込む。

「高校を卒業した後は、とにかく家から出たかったんです」と実家が茶農家で小さい頃から家業を手伝っていた彼女。卒業後は、他国の文化を学びに単身で中国の北京へ。その時触れた異国文化に衝撃を受ける。国際的にはやはり英語が大事だと実感し、その後はアメリカへ渡り日本に帰ることは考えずに生活をしていたが、姉の「いったん帰っておいで…」の一言をきっかけに帰国することを決意。「小さい頃の経験から、茶農家の楽しさや大変さもわかつていたが、自分がお茶の仕事をするとは考えていなかつた」。外へ出たことで改めて自分の生まれ育った地域の魅力に気づき、お茶に興味を持ち始めた。中でも仕上げ工程でお茶が変化することに面白みを感じ、



市内の茶匠の元で修業をし「お茶のことは知れば知るほどわからなくて…日々勉強です」とお茶に魅了されていった。現在はお茶の加工の傍ら、海外のツアーゲストへお茶や地域の魅力を発信するガイドをしたり地域のPRにも貢献。日々続く無農薬、有機栽培のお茶を守り続けている。



#6
Tamiko Kinezuka
杵塚民子
— 人と農・自然をつなぐ会
1981年、藤枝市生まれ。
自由気ままで活発な性格だった。

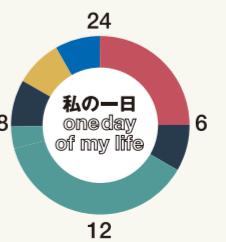
#7
安心して作業ができる安全な環境づくり。

「この仕事を始めたのは、建設業界で働いていた兄がきっかけ」と答えてくれた。中学卒業後、とび職人の世界へ飛び込み、この道一筋16年のベテランだ。仕事は、足場工事を行うとび職。大工や塗装業者のために足場を組む。安全が第一である反面、足場を組む時間は1~2日しかなく、効率も求められる。更に、現場で行う作業により足場の組み方も異なる。体力はもちろん、頭脳、経験を要する仕事だ。足場が完成したときはもちろん、撤去する際にも達成感を感じている。「自分達の作った足場を使って仕事をする職人達が、怪我なく安全に作業を終えてくれたことを実感しながら撤去をします。僕たちの仕事は職人達の命もかかっているので、足場の解体後は何よりほっとし



ますね」。責任が重大だからこそ、やりがいも大きい。一般的に、独立する人が多い業界だが、彼は、今の会社に在籍し続ける意思だ。「今の会社や、社会に貢献し続けたいという気持ちが大きい。生まれ育った地元に、この会社で貢献したい」。体力的にもきつい仕事だが、家族のために頑張る彼は輝いていた。

#7
Ryousuke Sugiyama
杉山亮介
— 堂本工業
1984年、焼津市生まれ。
小さい頃はサッカー少年。活発な性格だった。



⌚ Daily Schedule
仕事の休憩時間に、仲間たちとの会話を楽しむことがチームワークのとれた仕事に結びついている。趣味のゴルフも欠かせない。

■ 睡眠 ■ 食事 ■ 仕事
■ ゴルフ練習 ■ お風呂

これからも 藤枝市に住み 続けれたい と思いますか？

YES WE LOVE FUJIEDA
90.2%

■藤枝市民アンケートより

Q. 藤枝の好きなところ
サッカーで盛り上がるところ。



MARUMI EGAMI FAVORITE PLACE

“シネプレーゴ” (BiVi 藤枝内)

職場や駅からも近いBiVi藤枝内にあるので、思い立ったらずぐに見に行けるところが魅力的。空いた時間や、気分転換によく利用をしている。



Q. 藤枝の好きなところ
ほどよい都会さ。



MIKA HAMASAKI FAVORITE PLACE

“カフェのスイーツ”

知り合いが経営しているカフェは良く訪れるお気に入りの場所。中でもお店のスイーツはお気に入り。スイーツのまち藤枝を実感することができる。



Q. 藤枝の好きなところ
あたたかい人柄。



DAISUKE KAJIYAMA FAVORITE PLACE

“ゆらく”

寒い冬場は、週に1度の頻度で通う。あたたかいお風呂にゆっくりと浸かり、心身共にリフレッシュすることができる。銭湯の文化は日本ならでは。



Q. 藤枝の好きなところ
おいしい飲食店がたくさんあるところ。



RISA MOROTA FAVORITE PLACE

“藤枝で食べる朝ラーメン”

余裕のある朝や休みの日には、早起きをして友人と朝からラーメンを食べに行く。さっぱりとしているので、温と冷のセットで平らげてしまうことも。



Q. 藤枝の好きなところ
ほどよい都会さ。



Q. 藤枝の好きなところ
住みやすく居心地が良い。



AKIHIRO SEO FAVORITE PLACE

“蓮華寺池公園”

仕事が始まる前に公園を散歩したり、近くのスターバックスコーヒーへ行き、コーヒーを飲みながらくつろぐのが至福のひととき。



Q. 藤枝の好きなところ
新鮮な野菜や食べ物がおいしいところ。



TAMIKO KINOSHITA FAVORITE PLACE

“茶畑や豊かな自然”

茶畑や山の自然が多く、気候もおだやかで過ごしやすいところ。茶農家をはじめ、茶匠や手もみ職人などお茶に携わるプロも多くいるので、日々刺激を受けている。



Q. 藤枝の好きなところ
駅周辺に、にぎわいや活気がある。



RYOSUKE SUGIYAMA FAVORITE PLACE

“冬の藤枝駅イルミネーション”

毎年冬は子ども達といっしょに駅周辺に行き、イルミネーションを見るのを楽しんでいる。駅周辺にもにぎわいがあるので、仲間たちと一緒に歩く機会も多い。

